

前年度（2025年度）評価結果からの変化とその要因（マイワシ太平洋系群）

ポイント

- 2025年の漁獲量が大幅に減少（図1、2024年：138万トン、2025年：6万トン）。主にロシアの漁獲量が減少（図1、2024年：59万トン、2025年：6万トン）
- 親魚量の資源量指標値※1である産卵量は、近年、減少傾向にあったが、2026年はさらに減少し極めて低い値（図2）
- 漁獲量の減少、親魚量指標値（産卵量）の減少の結果、2021年以降の資源量・親魚量は前年度評価より低く推定された（図3）
- 2025年の0歳魚の資源量指標値※1は近5年間に於いて低い値であり、2025年級群も低い加入量と推定された
- 資源量・親魚量の低下に加え、2025年級群の加入量も少なかったため、2026年以降の将来予測の親魚量・漁獲量等も前年評価より低く見積もられた（図3、2027年漁獲量：70.9万トン→16.2万トン※2）

※1 資源量指標値：資源量を反映していると考えられる指標であり、親魚量の資源量指標値は産卵量、0歳魚の資源量指標値は沖合調査の曳網時間当たりの漁獲量（CPUE）を使用

※2 2027年のABC

その他の主な変化とその要因など

- 2025年の評価結果を予測値から推定値に更新
- マイワシの分布範囲は資源量の増減に伴い拡大・縮小するが、2025年のロシアの漁獲の急減（図1）は、資源減少に伴う分布域の縮小の顕れとも考えられ、90年代初頭の資源減少期にもロシアでの漁獲の急減が見られた
- 最近10年間の中で見れば、2023年級群以降に低い水準の加入が継続していたため、近年の高い加入をある程度反映させた予測（前年度）から、通常加入期の再生産関係に基づく予測（本年度）に変更したことも、将来の加入量等が前年度評価よりも低く想定された要因の一つである

データの更新（図1、図2）

- 2025年の漁獲量と2025年および2026年の資源量指標値※1を新たなデータとして追加

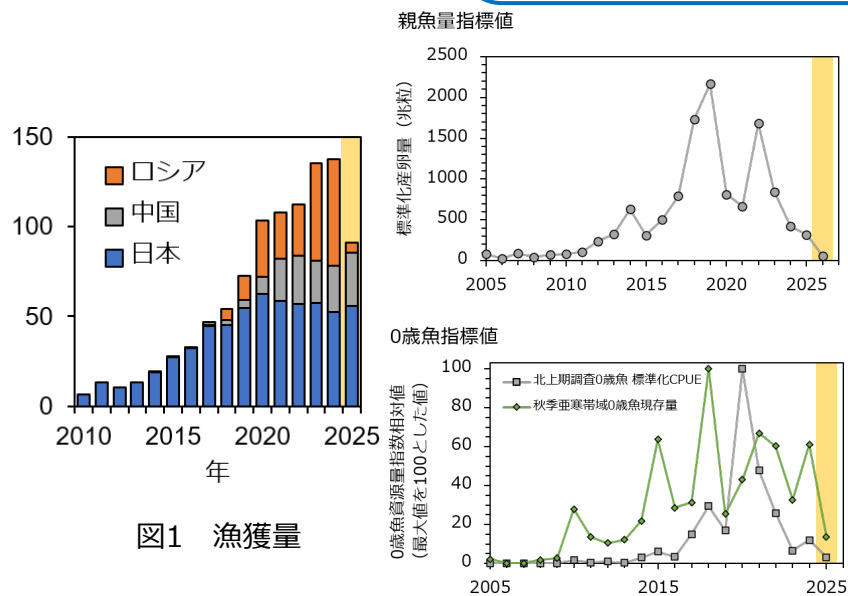


図1 漁獲量

図2 資源量指標値※1

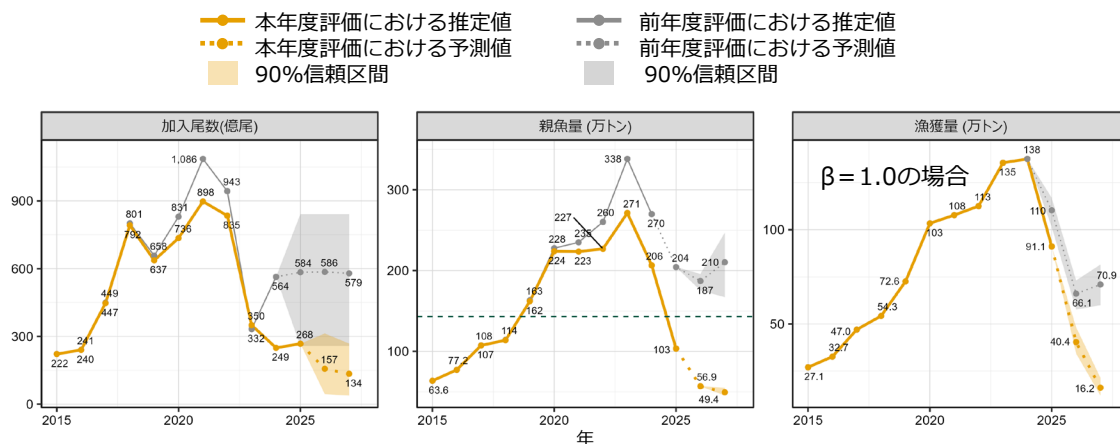


図3 本年度（2026年度）と前年度（2025年度）の評価結果

2027年のABC：本年度評価における2027年の平均漁獲量

2026年のABC：前年度評価における2026年の平均漁獲量

前年度評価における2025年の漁獲量と本年度評価における2026年の漁獲量は近年の平均的な漁獲圧を基に算出

マイワシ太平洋系群の資源の減少要因に関する考察

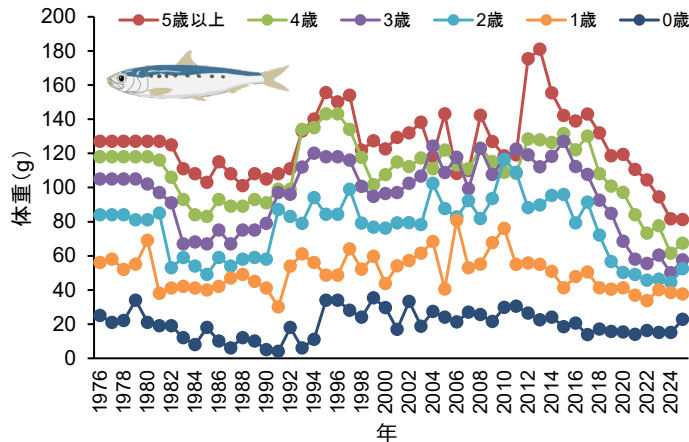


図4 年齢別平均体重の経年変化

- ・ 2018年以降、特に2歳以上で平均体重が急激に低下している※1（図4）

その理由として

- 1) 海水温上昇に伴う北西太平洋における餌料プランクトンの減少
- 2) 海の生産力が低下している状況下では強い密度効果（餌の奪い合い）が働くため、1980年代に及ばない近年の資源量でも成長速度や肥満度が低下

などが考えられる

- 成長速度の低下により、資源量が増加しにくくなり、また成熟年齢の高齢化が起きて親魚が増えにくくなっている
- 肥満度の低下により、親魚の体重あたりの再生産能力（産卵数・産卵回数等）が低下している可能性も考えられる

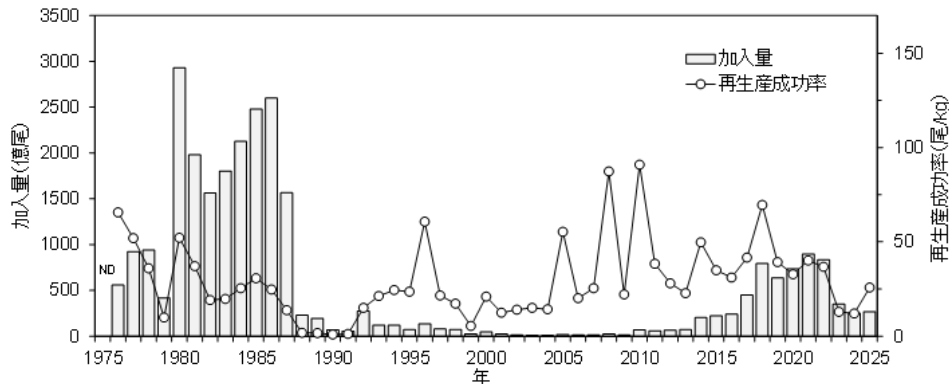


図5 加入量および再生産成功率（RPS ※2）の推移

- ・ 2023年以降、2017～2022年と比べて加入量は低下し、RPS※2も低下したが、1980年代末～90年代初頭に見られた極めて低い水準ではない（図5）
- ・ 漁獲圧※3は2012年以降、相対的に低い水準が続いたが、2024・2025年に上昇した（図6）

→ 成長速度の低下や加入水準の低下により、資源が増えにくい状態になってきた中で高い漁獲圧がかかったことが、資源の減少に大きく影響していると考えられる

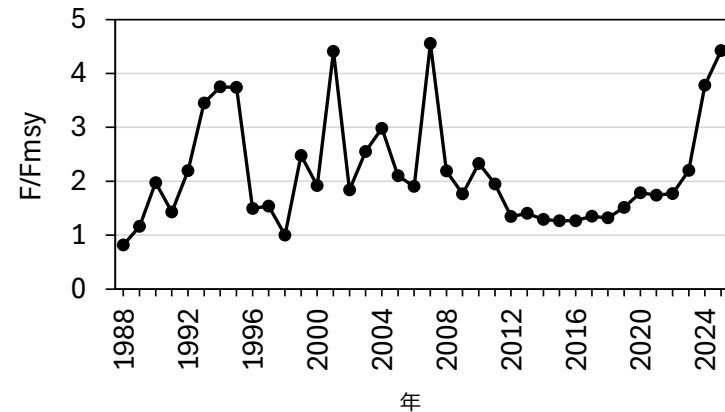


図6 漁獲圧※3の推移

※1 0歳と1歳の平均体重が比較的安定している理由としては、魚体が小さいことや、産卵を行わないこと等が考えられる

※2 親魚量あたりの加入量。産まれた卵が0歳魚として漁獲対象になるまでの生き残りの良否に相当する値

※3 ここでは通常加入期（1988年以降）のFmsy（MSYを実現する漁獲圧）に対する各年の漁獲圧の比として表した

2026年の新規加入量に関する情報

北上期浮魚類資源調査の結果（速報）

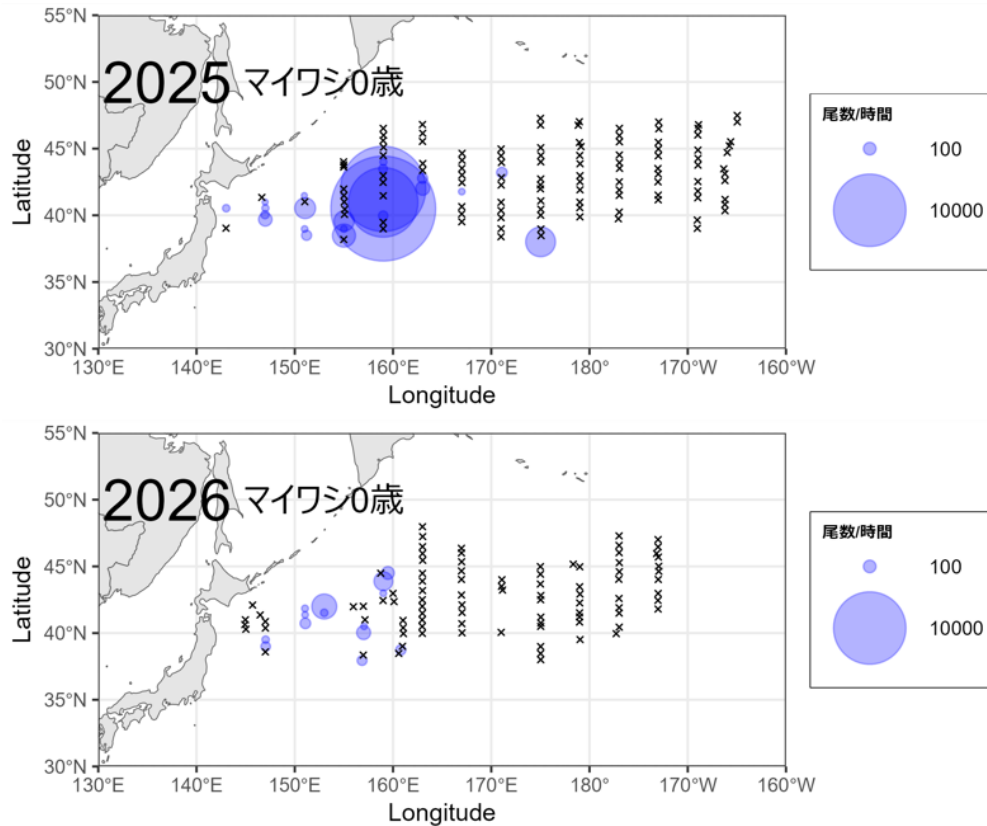


図7 北上期浮魚類資源調査（5-7月、トロール調査）による2025、2026年のマイワシ0歳魚の分布図（×はマイワシ0歳魚が採集されなかった地点を示す）

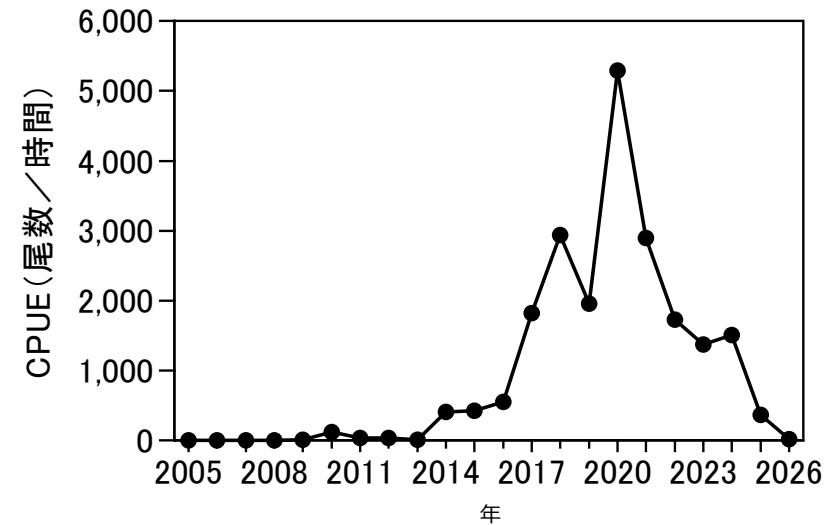


図8 北上期浮魚類資源調査によるマイワシ0歳魚のCPUE*

※ 単位時間あたりの採集尾数で、調査海域の分布密度の指標となる。ここでは標準化前の値（全曳網の平均値）を示しており、図2下の標準化後とは若干異なる推移となる

- ・ 2026年の北上期浮魚類資源調査におけるマイワシ0歳魚の分布域は2025年より縮小した（図7）
- ・ 2026年の本調査によるマイワシ0歳魚のCPUE※は前年を大きく下回り、2013年以前のような低い水準となった（図8）

→ 2026年級群の加入量は前年を大きく下回り、2026年以降の資源量はさらに減少する可能性がある